欧州ハンドメイド自転車展(European Handmade Bicycle Exhibition)参観報告

今年二回目を迎える同展は、北米ハンドメイド自転車展の欧州版として昨年より開始された。2010 年 5 月下旬、昨年同様にドイツ南部のシュヴァービッシュ・グミュントで開催された。

【European Handmade Bicycle Exhibition 2010】

主催：　2Soulscycles

会場：　Congress-Centrum Stadtgarten

会期：　2010 年 5 月 21 日(木)～23 日(日)　10:00～18：00

入場者数：　未公表（昨年 2,700 名）

出展社数：　87 社（昨年 69 社）

会場入口、正面ロビー付近

昨年は、当初見込みを上回る出展者数と展示面積となり一定の成功を収めたとみられた同展は、今年、出展社は前年比 26%増の 87 社と更に昨年を上回った。しかし、入場者数については、主催者は昨年と同程度として正式な人数の公表はまだない。ドイツ自転車雑誌などによると、今回の入場者数は昨年より減少したと報じられている。今回も昨年と同じく土曜日のユーザーデーに同展を訪れたが、昨年より入場者が少ない印象が拭えなかった。

出展社の国別内訳では、地元ドイツの出展社が半数余りを占め、次いでイタリア 7 社、スイス 6 社、オランダ 5 社及びイギリス 5 社、その他も欧州 4 国からと、殆ど欧州の参加者であった。今回多数の参加が見込まれた米国からは 2 社であり、主要な出展社の顔触れは昨年とほぼ同様であった。この会場は地域の市民ホールであり、展示会のための見本市会場などではないため、会場レイアウトと展示面積の制約上、これ以上の規模的な拡大は望めず、出展申込みが多数あっても対応できたかどうかは疑問であった。今後、規模の拡大を目指すならば、より広い施設や消費者が多い地域への会場移転の検討も必要である。

1階展示場の様子

ホール展示の様子

出展物の多くは、趣旨に沿ったハンドメイドの自転車とフレームが中心である。フレーム素材としては、クロモリを中心に金属パイプフレームが殆どであり、カーボンフレームに最新パーツを装着した大手メーカー車とは違い、一見、クラシカルな装いの自転車が多かった。車種ではロードレーサーやMTB等のスポーツ車が中心であり、前年と比較してMTBやMTBフレーム出展が若干増えていた。更にピスト車、BMX やツーリング車なども少数ながら見られた。なお、現在は大手メーカー間では下火の素材となったチタンフレーム車も同展では多々見られ、セブン、デ･ローザ、nevi やCRIPSが今年も出展していた。

部品関連では、昨年に引き続きコロンバス、レイノルズ及びタンゲなどパイプメーカーが出展していた。更に今年はカンパニョーロ、ディスクブレーキのホープ等も参加していた。なお、昨年出展していた日本製自転車部品専門店は、開催内容に大変満足し2010年参加の意向を早々と表明していたが、今年は会場に姿が見られなかった。また、各ブースに出展されている自転車への日本メーカー製部品の装着率も昨年より低くなっていた。

昨年は初開催のため期待以上の良い印象を持ったが、今回2回目を迎え、昨年と比較することによりその印象は変わらざるを得なかった。当地はのどかで雰囲気のよい場所ではあるものの、多くの来場者を集めるには地理的に便利とは言い難い場所にある。同展は自転車企

業が集うビジネスの場ではなく、一般消費者が多数つめかけるようなレジャー展とも違い、それら従来の展示会とは一線を画しハンドメイド自転車の愛好者同士が集う趣味的要素の強い催事として今後も開催されていく可能性が強い。各出展者の小間も小規模で装飾も至って簡素なものであり、主催者は現状で満足なのか更に規模の拡大を目指していくのか、その方向性は不透明である。

したがって、日本製自転車部品の輸出促進のために出展する場としては現状では相応しくないと思われる。しかしながら、同展からは様々なアイデアやデザインの自転車が出現する可能性もあることから､流行や情報発信の場として今後も出展内容物に注目する価値はある。

なお、来年の開催予定については、主催者は今回の開催内容と課題を踏まえて思案中であり、その日程はまだ公表されていない。

クラシカルな装いのハンドメイド車が多い

以　上

（デュッセルドルフ事務所）

KEIRIN この報告書は、競輪の補助金を受けて作成したものです。

夢への補助輪。